

満であった。AE 9 件のうち 8 件は、用量の低さによる治療反応の低下により説明可能であった。これらのデータは、米国で rFVIIa 製剤が承認されて以来の、この治療薬の使用に関する最も包括的な報告であるが、HI 患者における出血事象は在宅で安全に、そして効果的に治療できること、さらに、単回のボラス投与用量として 346 $\mu\text{g}/\text{kg}$ までは忍容性が良好であることが証明された。また、 $> 200 \mu\text{g}/\text{kg}$ は有効性を有意に増加させると考えられた (低用量

群での止血成功率が 84%であったのに対して、最高用量群では 97%であった)。今後、至適用量、特に ① 有効最低用量、② 高用量を使用した単回のボラス投与によって繰り返し投与が不要になるか否かについて明確にしなければならない。本検討により、用量に関する安全性という点で rFVIIa 製剤の安全領域は広いことが示されたため、上記の疑問に答えられるものと考えられた。

Abstract: D. Posthouwer, et al.

Abstract

オランダ人血友病患者における C 型肝炎ウイルス感染：有病率と抗ウイルス療法に関する全国規模の横断的研究

Hepatitis C infection among Dutch haemophilia patients: a nationwide cross-sectional study of prevalence and antiviral treatment

D. Posthouwer, I. Plug, J. G. van der Bom, K. Fischer, F. R. Rosendaal and E. P. Mauser-Bunschoten

C 型肝炎は、1992 年以前に不十分に、あるいは全くウイルス不活化処理がなされていなかった凝固因子製剤の投与を受けた血友病患者における重大併存疾患である。本研究の目的は、オランダの血友病患者における C 型肝炎の有病率と、過去 10 年間における抗ウイルス療法を調査することである。我々は、これらについて横断的検討を行うこととし、オランダに居住し血友病であることが既知のすべての患者 (1,519 例) に 2001 ~ 2002 年にかけて質問票を送付した。対象症例は 1992 年以前に凝固因子製剤の投与を受けた 771 例であり、うち 638 例が C 型肝炎の罹患の有無について報告した。この 638 例中の 441 例 (68%) に C 型肝炎ウイルス (HCV) 感染検査での陽性歴があり、うち 344 例 (54%) で現在の感染が認められ、残りの 97 例 (15%) ではウイルスが消失していた。現在の感染が認められた 344 例

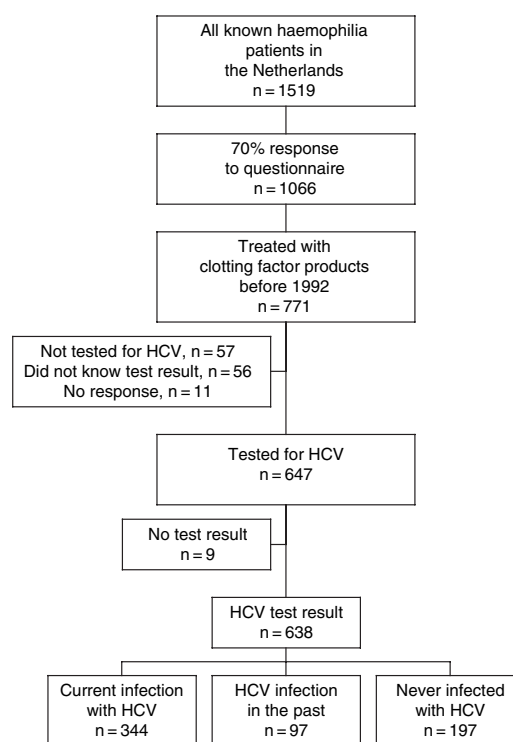


Fig. 1. Flowchart of selection of study population.

Table 1. Patient characteristics.*

Total number of patients	638
Age in years	41 (10–87)
Haemophilia type	
A	557 (87)
B	81 (13)
Severity of haemophilia	
Mild	211 (33)
Moderate	112 (18)
Severe	315 (49)
Patients treated before 1985†	523 (82)
HIV positive	28 (5)
Patients treated before 1992‡	638
Anti HCV positive	441 (68)
HCV RNA positive	344 (54)

*Information of patients treated before 1992 with a reported HCV test result. Values are medians (range) or numbers (percentage).

†At risk for HIV infection due to not adequately or non-virus-inactivated clotting factor products.

‡At risk for HCV infection due to not adequately or non-virus-inactivated clotting factor products.

のうち、111例(32%)にC型肝炎の治療歴が認められた一方で、過去の感染が認められた97例では、

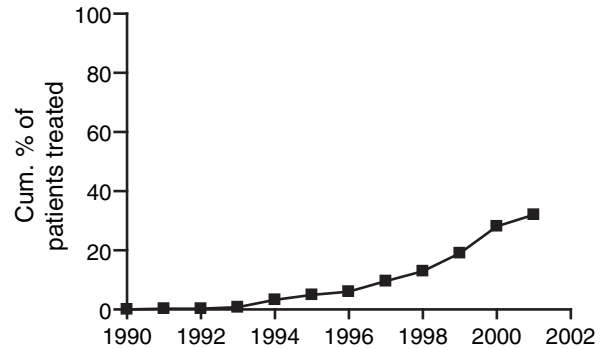


Fig. 2. Cumulative percentage of all HCV-infected patients with haemophilia treated with antiviral therapy during the last decade. Considering a spontaneous clearance of 15%, the maximum cumulative percentage would be 85%.

33例(34%)に治療歴が認められた。2002年におけるこれらの患者のC型肝炎有病率は54%(638例中344例)であった。現在の感染が認められた患者の半数以上は、抗ウイルス療法の治療歴がなかった。

Abstract: H. Chambost, et al.

Abstract

西欧諸国の血友病医療施設における血友病患児に対する治療形態の変化

Changing pattern of care of boys with haemophilia in western European centres

H. Chambost and R. Ljung on behalf of the Pednet Group

血友病の治療形態は、国家間で相違が認められるが、経済的、社会的そして文化的に密接な関係を有する西欧諸国間においても同様である。European Paediatric Network (PedNet)の目的は、血友病患児の治療に関する経験を、この分野の医療に携わる研究者、医師そして他の関係者間で共有することである。この目的に準じて、PedNetは、欧州の血友病医療施設間における血友病患児に対する治療形態の相違に関する調査を1998年に実施し、16か国の

20施設間で有意な相違が認められ、特に定期補充療法(予防投与療法)の導入について顕著な違いが認められた。2003年に再度同様の調査が実施され、この調査では22施設における血友病治療の最新の形態と、西欧諸国における重症血友病患児に対する治療形態の変化について調査された。その結果、PedNetに加盟しているすべての施設で定期的かつ継続的な長期の定期補充療法が提供されており、22施設中20施設では患児の50%以上に、また22施設中15施設では80~100%に適用されていた。さらに、22施設中20施設(91%)では、新たな患者